

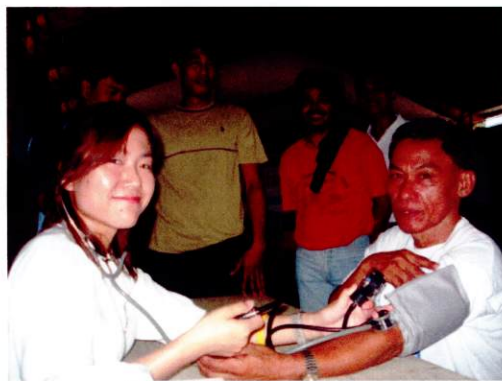
HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2007 vol.16

知野見看護師の現地報告

フィリピン保険医療支援事業に派遣中の知野見看護師から現地報告がありました！

知野見優紀子看護師は、首都マニラから車で8～9時間北上した、キリノ州ナグティプナン郡で、フィリピン保健医療支援事業のため活動中です。



住民への血圧測定サービス

への血圧測定サービスを行ったり、医薬品やビスケットを配付したりしています。

現在、2つの村ではヘルスステーションを建設中で、その間に一軒一軒ごとに個別訪問をしてヘルス調査を行っています。

住居は、キリノ支部の支部長宅を一軒間借りして、鶏やヤギが駆け回るようなのかな田舎暮らしを送っています。昼間は汗が出るほど暑く、



村の学校訪問ービスケット配り

具体的な活動は、医療施設から隔絶した各村を回り、村の住民から話を聞き、歩いて村の状況を調査したり、家庭看護法や救急法などの講習会を開き、現地のヘルスワーカー（保健指導員）や住民達に実践指導しています。また、州政府や地方自治体、NGOと協同して住民

家にはクーラーもないので、暑さ対策と水分補給をかかさないとすることに、そしてすべて精製された水を買って飲んでいきます。また、水道の供給が昼間に停止することがあり、電力も安定していないので停電も起こり、ロウソク生活を送ることもあります。

家での生活はほとんど不自由なく、行列をつくるアリヤトカゲやゴキブリと共存して生活しています。いったん気にするとキリがないので、見ても見なかったことにしています。（笑）



村の訪問ー村のヘルスワーカーと共に

月がたってしまったしました。貴重な機会を思う存分味わって帰りたいと思います。ご支援ありがとうございます。

楽しいことばかりではありませんが、でもその中で自分なりの楽しさを見つけ、あとわずかな期間でも目標があるので、それを目指してもう少し頑張ります。欲を言えば、ここでもっと深く学び、仕事をするとなれば、やはり最低1年はここにいたいなあと思うくらいです。あつという間に5ヶ月がたってしまったしました。貴重な機会を思う存分味わって帰りたいと思います。ご支援ありがとうございます。



こんな自然の中で生活しています!!

『運動器疾患に対する 高度専門医療を目指して』

整形外科部長 伊藤 康夫

整形外科



伊藤整形外科部長

☆特色 当院の病院機能の柱のひとつに、専門性を重視した高度医療があります。そのひとつに「運動器疾患に対する高度専門医療」を掲げています。

整形外科は脊柱ならびに四肢の運動器疾患を取り扱う、機能再建外科であります。その守備範囲は多岐にわたりますが、当科では、脊椎・脊髄疾患（鏡視下手術にも対応）、外傷、関節外科、上肢の外科、microsurgery（切断肢の再接着にも対応）、内視鏡手術のスペシャリストをそれぞれ配置し、小児から超高齢者まで、すべての疾病、外傷に対応しております。8名の整形外科スタッフは、一般外来、救急、手術、病棟業務のみならず、隣接する高度救命救急センターである災害医療センターにおける診断、治療、手術にも積極的に携わっています。救急に関しては、24時間整形外科医が当直、またはオンコール体制にて救急、緊急手術に対応しております。



最新設備を備えた第6手術室

また、当院は、神戸医療圏では初の、兵庫県下でも2番目の地域医療支援病院に認定されています。そのため、かかりつけ医や地域医療機関からの紹介患者様や、手術が必要な救急患者様を積極的に受け入れて治療を行っています。急性期病院という性格上、急性期の外来・入院治療が終了した時点で、再度、かかりつけ医や地域医療機関へ逆紹介をさせていただく場合があります。このため、慢性期における外来リハビリテーションは原則として行っておりません。

脊椎疾患に対する手術、人工関節手術、高齢者の股関節周辺骨折に対する手術治療はクリニカルパスの導入を行い、さらに

地域医療機関との連携を構築し、一貫した治療を行っています。

2006年の手術例数は870例で、多発外傷例が多いことが特徴です。主な内訳は、四肢骨盤外傷手術が最も多く512例、脊椎・脊髄手術は214例（脊椎脊髄損傷に対する手術65例を含む）、切断肢に対する手術（再接着手術を含む）42例、などです。

脊椎手術、人工関節手術においては、最新のナビゲーションシステムと、全国に先駆けて導入した手術室内3次元CT（現在国内では数施設のみ稼動）を用い、ミリ単位の精度を持った手術を可能にしています。

今後も、病病連携、病診連携を積極的に推進し、地域医療、高度専門医療、災害・救急医療を着実にこなしていく所存です。



手術室内3次元CT、透視装置

整形外科スタッフ



後方左から）
矢形副部長、杉本医師、下川医師、塩崎医師、
馬崎医師、森田研修医

前方左から）
長谷川副部長、伊藤部長、中後副部長



『冬にはやるこどもの病気について』 第17回HAT健康セミナー報告

冬は毎年、子ども達にとって一年で最も病気にかかりやすい季節です。その冬を目の前にした11月7日、小児科・吉新部長による、代表的な流行疾患についての健康セミナーが開かれました。まずはRSウイルス感染症。1歳未満の乳児がかかると、せきと喘鳴で呼吸困難をきたす細気管支炎となり、入院が必要となることも多い病気です。次にウイルス性胃腸炎。ロタウイルスとノロウイルスがあり、いずれもおう吐、下痢、発熱の症状で、幼い子どもほど脱水になりやすく注意が必要です。

そしてインフルエンザ。子どもとお年寄りには合併症も多く重症になりやすい病気です。これらの病気について、その診断、治療そして予防対策について、わかりやすい説明がありました。

お薬 四方山話 11 『インターフェロンについて』 薬剤部 堀部 正記

先月、話題となっている薬害肝炎問題に対し、舛添厚生労働相からインターフェロン治療費助成を患者救済策の柱とする「肝炎治療7カ年計画」が発表されました。C型肝炎治療の中心となるのがインターフェロンですが、どのようなものなのでしょう。

インターフェロンはウイルスに感染したときに体内で作られる蛋白質の一種です。約50年前にウイルスの増殖を抑える物質として発見され、約20年前より薬としてB型、C型肝炎の治療に使われています。

実際の治療は、インターフェロンそのものと、週3回通院して注射しなければなりませんでしたが、近年、週1回の注射で週3回と同じ効果の新しい製剤が作られ、使用されています。またインターフェロンの効果を増強する飲み薬との併用で効果が大きく高まり、ウイルスのタイプによってはほぼ完治できるようになっています。

副作用としては、インフルエンザのような症状や注射部位の痛みがよくみられますが、多くの症状が治療終了後数日で回復しますし、解熱鎮痛薬で対応することもできます。

栄養課 だより

14



南イタリアの地中海型食事は健康長寿で魚介類を沢山食べる日本食と似ています。主食の穀類はパスタで野菜、豆類を毎日食べオリーブオイルを使った料理にナチュラルチーズ、ヨーグルトと少しのワインが健康の秘訣のようです。肉、デザートは控えめにしましょう。

地中海型食事の重要なポイントは食物繊維を多く含んだ複合糖質から摂ることで生活習慣病の予防効果も期待できます。

① 保存性に優れた乾燥パスタがお勧めです。
② パスタはアルデンテに硬めに茹で、良く噛んで食べる。
③ パスタに和えるソースはオリーブオイルをベースにします。具やソースは控えめに（ソースが多いとグチャグチャになります。）野菜、豆、きのこ類を主体にしましょう。

今回ご紹介するのは簡単に作れる「トマトソースのパスタ」です。
☆ゆで湯は基本パスタ100gに対して1リットル、塩はゆで湯の0.9%で硬めにゆで、ソースとからめてお召し上がりください。（鍋が小さい場合、半分に折ってゆでてください。）

● トマトソースのパスタ ●

エネルギー	422kcal
タンパク質	13.2g
脂質	4.3g
食物繊維	4.5g

材料			
スパゲティー	90g	玉葱	60g
人参	10g	バジル葉	1g
にんにく	0.5g	トマトピューレ	20g
トマトケチャップ	20g	コンソメ	0.8g
赤ワイン	5g	ブラックペッパー	
オリーブオイル	2g		0.15g



基本方針

1. 患者さまを中心として、人権と意思を尊重し、安心と満足が得られる医療を提供いたします。
2. 地域医療機関との連携を保ち、患者さまに一貫した医療を提供いたします。
3. 救急医療、災害救護活動、国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し、明るく活力のある職場づくりに努めます。

神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見通しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。（セカンドオピニオン）
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報（秘密）が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

この「手作りニューミトン」は、手袋の中で指が自由に動かして運動もできます。綿手袋以外に軍手タイプが登場して、大きな手の方にも使用できて大変好評です。



また、カバーと中のクッションが分かれるので、カバー洗濯が可能で、



今夏から縫製のベテランの方による縫製ボランティア（4名）の皆さんに週1回のペースで活動していただいています。

最初の作品は、「手作りミトン」。

手作りミトンは、

当院看護師が考案して、

有志で細々と作っていました。

このたび、ボランティア

の皆さんの協力で、カラフルで改善された「手作りニューミトン」ができました。

病院では医療の安全を図るため、抑制器具を使用する場合があるのですが、市販の抑制器具では、味気ないうえ、手指の動きが確認できないなどの欠点がありました。

この「手作りニューミトン」

は、手袋の中で指が自由に動かして運動もできます。

綿手袋以外に軍手タイプ

が登場して、大きな手の方にも使用できて大変好評

です。

縫製ボランティア活動中！

トピックス&ニュース

第18回

HAT健康セミナーのご案内

「更年期障害について」

- 開催日時：平成20年2月6日（水）
午後3時30分～4時30分
- 場所：神戸赤十字病院
3階 第2研修室
- 演者：婦人科部長 佐藤朝臣

※下記までお電話またはFAXでお申し込み下さい。

地域医療連携室（予約センター）

TEL:241-9273

FAX:241-9265

参加申込
お問合せは



スタートした時には、縫製ボランティアの皆さんも、「これは、何？」と試行錯誤で縫製し、現場の意見を聞いてはまたやり直しと…頑張つてくれました。

患者さまと直接ふれあう機会はありませんが、少しでも患者さまのお役にたてばと、一針一針気持ち

を込めて、楽しくわきあいあいと活動中です。

他にも、心電計用小物入れも作っていただきました。

丁寧に作っていただき、大変感謝しています。今後とも

よろしく願います。